

「京力農場プランの実質化を目指して地区連絡会議を実施」

京都府 和束町農業委員会

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

- 農業委員： 14人
- 農地利用最適化推進委員： 6人
- 事務局職員： 3人
- 市町村行政との連携状況：

町行政担当課と農業委員会は兼務で毎月1回程度現地推進役と調整会議をしている。

(写 真)

2 地区の特徴、状況、課題

(市町村の概要) 和束町は敷地全体のうち大部分を広大な山林、農地で占め基幹産業は茶業が営まれる。

(地区の概要) 14地区からなり特に北東の方では湯船区と南側では木屋地区については高齢化と人口減少が顕著になっている。

(地区の課題) 担い手の不足などにより遊休農地が増加してきている。



3 委員による継続した話し合いの取組内容

令和2年7月20日に新体制に移行。その後8月11日に最適化推進委員が任用される。その後農業会議さんを交える研修で地区連の地区別会議の自主的な開催など進め方を説明。6地区に班を分けて自主的な開催についてお願いしているところ。
東和束地区（3人）、湯船地区（3人）中和束地区①（3人）中和束地区②（4人）
西和束地区①（3人）西和束地区②（3人）

4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- 現行のプランは平成27年9月に公表。京力農業プラン（人・農地プラン）の実質化の取り組みとして、アンケートと地図の作成を実施。
- 地区ごとの話し合いと取りまとめを実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により来年度に延期

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください